

中国における大学教育の質的向上政策 — 大学の現状と問題点 —

金山 権

要旨

中国は、世界の一流大学、一流学科の所謂「双一流」建設推進のため、国全体が学術振興へ力を注ぎ、政策、戦略、計画など諸方面から取り組みが行われている。

本稿では中国教育の現状、大学の発展を阻む学術の腐敗を中心に、1999年から2012年まで実施された拡大募集による高等教育大衆化の状況、問題点、中国の特徴ともいえる発展途上国ながら大学教育における「211」・「985」工程から世界一流大学、一流学科建設への教育の大衆化から差別化を図る傾斜教育の戦略的な転換を取り上げる。

それと同時に、目覚ましい勢いの陰に隠れて見落とされがちな大学の発展を阻む学術の腐敗を教員の評価と昇進制度、後を絶たない学術の腐敗、新しい評価制度導入の試みと不安の諸点から取り上げ明らかにする。

キーワード 大学教育、拡大募集、「211」・「985」工程、「双一流」、学術の腐敗

はじめに

中国の普通大学は、文部科学省にあたる国家教育部の直属大学、教育部以外の中央官庁に属する大学、地方政府の教育部門が管轄する大学、地方政府の非教育部門が管轄する大学および私立大学の5つの区分に分類される。教育部の直属の75大学（2016年末現在）は、高レベルの主要大学となっている。経済発展にともなう教育重視の政策の下で中国高等教育の質も向上されつつあり、積極的にグローバル化へのリンクをはかっている。

1999年から中国の大学は拡大募集を実施、2011年からは大学の受験を25歳以上でも可能とし、大学の入口を完全にオープン化した。これによって、受験者と高校の関心事は単なる進学より大学を選ぶ時代となった。2003年の完成年度に伴う第一期の卒業者が出てからは就職問題がクローズアップされ社会全体の注目を集めてきた。失業率は、民営企業における発展空間の制限、国有企業の株式制転換上の問題、金融とハイテク産業の低迷などによる構造上の欠陥などに関係しているが、拡大募集は就職にうまく繋ぐことができなかったことを示している。拡大募集の実施13年後の2012年4月、教育部は『高等教育品質の全面向上に関する若干意見』を公布したが、結局拡大募集による教育質、教育環境や教員レベルの低下を招いたことが伺える。

中国政府は、21世紀に向けて優良100の大学をつくる所謂「211プロジェクト」⁽¹⁾、なお、

その中からまた、戦略的に大学における研究の質を国際レベルまでに引き上げるために、傾斜戦略を講じ限られた大学に重点的に投資を行う、いわば「985 プロジェクト」⁽²⁾ の実施を立ち上げた。更に、積極的に国際化を目指し世界の中国を掲げる国策下で、2015 年 11 月 5 日に『共に世界一流大学・一流学科の建設を推進する国务院の全体案』（国発〔2015〕64 号）が公布、実行された。2020 年までに若干の大学と複数の学科における世界一流レベル入りを果たし、2030 年にはさらに多い大学と関係学科のレベルを世界一流学科レベルまで引き上げ、大学教育全体の實力を向上させ、今世紀中葉までには世界一流大学、一流学科の先頭に立ち、高等教育の強国を目指す計画である。

大学の大衆化から重点大学建設への傾斜措置を講じ、世界一流大学・一流学科を作り上げることで輝く中国をアピールすることであるが、急成長を遂げている発展途上国でありながら一流大学・一流学科を同時推進させたいまさに中国の特色ともいえよう。しかし、目覚ましい勢いの陰に隠れて見落とされがちな学術腐敗が“一般化”されるほど深刻になっているのも事実である。本論では、上述の現状下で中国における大学教育の状況、露呈している問題点を明らかにすることにする。

1. 中国大学教育の現状

ここでは、大学教育の大衆化に寄与した 2009 年より始まった拡大募集から拡大募集抑制に踏み切った 2012 まで、そして 2015 年に打ち出された世界一流大学一流学科の建設を推進するいわゆる教育の大衆化から差別化を図る傾斜教育の戦略的な転換を取り上げる。

(1) 拡大募集に伴う大学教育大衆化と問題の露呈

表 1 は 1999 年拡大募集開始から拡大募集停止の 2012 年までの受験者、合格者、合格率の推移を示している。

なぜ、拡大募集に踏み切ったのか。その背景を探ると、1992 年鄧小平氏の南巡講話を契機に更に改革開放と市場経済の推進を認め、大規模な国有企業の改革が行われ、企業の倒産、リストラなどにより従来のように大量に大卒生の受け入れはできなくなった。

1996 年から大卒生による就職先の選択が試験的に行われ、国による卒業生の就職分配制度は 1998 年に基本的になくなり、98 年は既に 70%の卒業生の就職活動が自由となった⁽³⁾。1992 年から 1998 年までの国有企業の制度転換、市場経済改革により大量のリストラ（中国語：“下岗人員”）が現れ、1997 年だけで 2,115 万人に達した⁽⁴⁾。1990 年代はじめからは経済の過熱によってインフレに見舞われたが、抑制政策によって 1994 年の 24.1%のインフレ率が 1996 年には 8.3%まで下げることができた⁽⁵⁾。1998 年 11 月、経済学者湯敏氏は個人名義で中央政府に「中国経済の有効な道筋— 拡大募集倍増に関して」の提案書を送った⁽⁶⁾。大学募集人数倍増に関する彼の提案は 5 点であった。①大学生の数は同じ発展レベルの国よりもはるかに低い、②国有企業の改革で生じた大量のリストラ者の再就職と若者の就職との衝突により悪性循環が現われる、③教育は国民の最大の需要で、拡大募集により内需拡大につながり経済発展に刺激を与える、④平均 1 教員が 7 名の大学生教育に従事している現状から

みると拡大募集について大学には余裕がある、⑤高等教育の普及は中華民族の振興につながる。この提案は中央政府により認められ、政府は“内需拡大、消費刺激、経済成長の促進、就職圧力の緩和”を目標とした拡大募集に踏み切った。

詳細に関しては表1からも分かるが、拡大募集開始の1999年の288万人の応募者、160万人の合格者、50.56%の合格率から、2012年には、915万人の応募者、685万人の合格者、74.86%の合格率まで向上されたことは拡大募集の大きな成果であり、教育の大衆化に大きく寄与していることが示されている。

しかし、大学の拡大募集の実施からさまざまな問題も表面化してきた。問題の一つは、教育の質の低下とインフラ整備の出遅れであった。例えば、名門の北京大学さえ学生寮が足りず(中国の大学は全寮制である)、一部の学生らは自力で寮を探さなければならない状況にまで至っている。2002年北京教育委員会が北京市50の大学で行った調査では、65%の教員が足りず拡大募集持続は窮地に陥った⁽⁷⁾。湖南省だけで、拡大募集による学生数は42倍増となったが、教員数はただの2.1倍増に留まった⁽⁸⁾。もちろん、教員数を急速に増やすと教員の質的レベルの低下を招く恐れもあるが、両者のギャップは大きい。

2003年拡大募集の完成年度にともない、卒業生の進路が全社会の関心事となった。国家による卒業生の分配制度を無くしてほぼ10年が経ち、大量の卒業生の就職市場への流入自体はやがて拡大募集政策による需給関係のねじれ現象が生じた。結果は就職率と収入の低下につながり、2009年だけに700万人の卒業生が就職難に直面した。教育の質の低下と不合理

表1 拡大募集に伴う大学の受験者、合格者、合格率の推移

年度	受験者数(万人)	合格者数(万人)	合格率(%)
1999	288	160	55.56
2000	375	211	58.93
2001	454	268	59.03
2002	510	320	62.75
2003	613	382	62.32
2004	729	447	61.32
2005	877	504	57.47
2006	950	546	57.47
2007	1010	566	56.04
2008	1050	599	57.05
2009	1020	629	61.67
2010	947	657	69.38
2011	933	675	72.35
2012	915	685	74.86

出所：中国教育部(省)各年度『全国教育事業発展統計広報』、2007年第8期
『中国入試』により筆者作成

な科目構成などの問題が表面化し、市場の需要に適應できなくなり結局就職難という事態に陥った。2009 年リーマンショックの影響で就職問題は更に深刻となった。政府は一部の卒業生を末端行政組織に配属させると同時に大学院生募集の枠を拡大する措置で就職難の問題解決に取り組んだが、拡大募集によるマイナスの影響もあってこの政策はあまり理解されていなかった。就職難のことは大学生の待遇につながり、やがて農民工並のレベルまで給料が下がった地域も出てきた。少なくない大学では就職率を偽る問題も発覚、欠けている教育施設の補充のため殆どの大学では大学施設建築のブームが生じた。結果は、建設規模が膨らみ巨額の債務を背負うこととなったが、2007 年末まで全国大学における借款は 2,000 億元に上り⁽⁹⁾、一部の大学では返済のため学費を値上げする、大学の合格ラインを下げるなどの問題も生じた。債務問題は大学の信用度に大きな傷をつけることとなった。学生の質の低下が指摘される一方、中国の産業構造は製造業やサービス業の現場が中心で、産業の高度化、高付加価値化が思うように進んでいないため公務員や金融業、IT 業界など一部の産業を除くと大学生が求める仕事がなかなか増えず、結局卒業生の就職難が深刻化する一方であった。こういう状況の下で、政府は問題解決の対応策として拡大募集から募集抑制に踏み切ることとなった⁽¹⁰⁾。

(2) 質的向上による世界一流大学・一流学科（双一流）の建設へ

2016 年末現在、中国では 2,845 の高等教育機関があり、なかに 2,553 の普通大学（447 の民営の私立大学、275 の独立学院⁽¹¹⁾、7 の外国との合併合作大学が含まれている）⁽¹²⁾。2015 年 12 月 4 日の中国教育部 Website によると、高等教育は持続的な大きな発展を遂げており、2014 年末在校生数は 3,559 人で世界 1 位、大学数は 2,824 で世界 2 位、大学入学率は 37.5% で『教育企画綱要』で定めている 36% の目標を繰り上げ実現されている。1999 年～2014 年、教員の数は一安定的に増え、教職員は 233.6 万人に達し、なかに専任教員が 153.5 万人で世界 1 位の規模に達している。博士・修士学位取得者は 50%、若手・中年教員は 70% をそれぞれ超えている。なお、2015 年の大卒者は 750 万人に達している⁽¹³⁾。

表 2 は、中国教育部(省)が 2010 年 7 月 29 日に公布した『国家中長期教育改革と発展計画綱要（2010～2020）』のなかで示されている教育事業発展目標である。表 2 から分かるように、2009 年大学生総数は 2,979 万から 2015 年は 3,350 万人、2020 年には 3,550 万人まで増やして行く目標である。大学院生も 2009 年の 140 万人から 2015 年の 170 万人、2020 年には 200 万人まで増やす計画であるが、現在全体としては順調に進められていると見られる。

高等教育の大衆化を掲げてきた中国の大学教育政策は、2013 年から拡大抑制政策に転換、さらに世界一流大学、一流学科の建設に踏み切った戦略は世界経済第 2 大国でありながら未だに発展途上国である中国にとっては興味深い。中国では、1995 年に「211 プロジェクト」を打ち出し、21 世紀向けに重点的に 100 程度の大学と一定の重点学科の建設の目標を掲げた。1998 年にはまた「985 プロジェクト」を打ち出して、“優勢学科創造プラットフォーム”と“特色ある重点学科プロジェクト”を含め、世界一流レベルまでの到達を目指している。こうい

表2 教育事業発展目標

各種教育	万人・%	2009年	2015年	2020年
学前教育				
幼稚園園児数	万人	2658	3400	4000
学前1年前入園率	%	74.0	85.0	95.0
学前2年前入園率	%	65.0	70.0	80.0
学前3年前入園率	%	50.9	60.0	70.0
九年義務教育				
在校生	万人	15772	16100	16500
進学率	%	90.8	93.0	95.0
高校教育*				
在校生	万人	4624	4500	4700
進学率	%	79.2	87.0	90.0
職業教育				
中等職業教育在校生	万人	2179	2250	2350
高等職業教育在校生	万人	1280	1390	1480
高等教育**				
在学総人数	万人	2979	3350	3550
在校全寮生数	万人	2826	3080	3300
内：大学院生	万人	140	170	200
入学率	%	24.2	36.0	40.0
生涯（継続）教育				
在職生涯教育者数	万人次	16600	29000	35000

注：* 中等職業教育学生数含む； ** 高等職業教育学生数含む

出所：『国家中長期教育改革と発展計画綱要（2010～2020）』に基づいて筆者作

う状況からさらに具体的な目標が出されたのが「共に世界一流大学・一流学科の建設を推進する全体案」である。2015年8月18日中国共産党中央委員会“全面深化改革指導小組”の第15回会議でこの「全体案」を含む5つの案が通過され、同年10月24日国務院により正式に「共に世界一流大学・一流学科の建設を推進する全体案」（国发〔2015〕64号）が公表、発布された。

具体的に、2020年までの第一歩として、若干数の大学と複数の学科における世界一流レベルに、若干の学科の世界一流学科の先頭入りを実現する。2030年までの第2歩としては、更に多い大学と学科の世界一流レベル入りを果たし、複数学科の世界一流学科先頭入りを実現させ、高等教育全体のレベルのグレードアップをはかる。今世紀の中葉まで一流大学、一流学科の規模と総合実力の世界一流レベルに、基本的に高等教育強国の目標を実現する。つまり、2016年から5年毎で実行され中葉までに実現することである。『全体案』は、①一流のレベルを備えた教授陣の育成、②卓越した革新人材の育成、③科学研究レベルの向上、④優秀文化の伝承・革新、⑤相乗効果推進の尽力、という5項目の実現任務が定められた。

国务院の「全体案」の実施に応じて、各地方では『全体案』に相応した実現の目標を打ち出している。いち早く行動に出たのが広東省であった。広東省教育庁は、中山大学をはじめとする7つの大学と、広州中医薬大学をはじめとする7つ大学の18項目の一流学科建設の“7+7”実現目標を打ち出して⁽¹⁴⁾ハイレベル理工系大学建設のプランを掲げた。広東省の刺激を受けて、地方の各省も引き続き各自の実現目標を打ち出した。北京市は“北京市高等教育機関ハイテクイノベーションセンター建設計画”⁽¹⁵⁾を公表したが、清華大学の“未来チップ技術ハイテクイノベーションセンター”など13の大学におけるハイテクイノベーションセンターが最初の認可を得た⁽¹⁶⁾。上海市が実行している“高峰高原重点学科建設計画”は、第一段階で36億元を投入して2020年まで上海市高等学校学科全体のレベルをグレードアップし、20位の一級学科とその他若干の学科における国際一流レベル入りを実現させる⁽¹⁷⁾。浙江省は「浙江省一流学科選別に関する浙江省教育庁の通知」を發布したが、主に2016年～2020年までに一級学科の建設を推進することである⁽¹⁸⁾。遅れている中西部地域も踏ん張っている。陝西省政府は「陝西省高等教育機関学科建設発展企画（2016～2020）」を公表したが、主として、5年間をかけてイノベーションの条件を整え、人材養成、新しい成果を生み出す国際著名、国内優位性をもつ学科を建設する⁽¹⁹⁾。河南省政府も「河南省における競争力あり、優位性をもつ学科建設実施案の通知」を公表し、世界一流レベルの競争力ある学科と総合実力として全国上位クラスに入る特色ある学科の建設をアピールした⁽²⁰⁾。

学科をベースにして世界一流の大学とハイレベル大学を建設することが、上記計画の共通点である。一流大学、一流学科建設政策の推進下で中国の大学教育は地域発展における新しい時代に入っていることが示されているが、地方にせよ、中央にせよ、一流学科なしで一流大学の建設は机上の空論である。

1995年からの「211プロジェクト」実施と1998年の「985プロジェクト」の実施によって、重点大学と重点学科は整備され進められている。しかし、欠けている競争メカニズムの構築、学科の重複、カリキュラム上の不備などで真の競争力がある資源の整合性、創造性などが問題視されつつあった。こういう状況下で政府は、“一流を目標、学科をベース、効果をテコ、改革をパワー”という目標実現の基本原則を定めた。例えば、国内で先頭に立ち世界のハイレベルまで至っている学科を擁する大学に対しては政府が全力バックアップして世界一流大学のレベルまたは先頭入りを応援する、いくつかの領域では国内の先頭に立ちながら世界の同分野内では競争力がある学科の大学に対しては学科建設に重点的にバックアップし世界同分野大学の先頭入りを応援する、あるハイレベル学科を持つ大学に対してはその学科の世界ハイレベル入りを応援する。総じて、学科建設は大学教育のベースであり、大学のコア競争力であると同時に特色ある中国のハイレベル研究型大学建設の道筋であると認識している。

(3) 大学教育の質的向上に伴う傾斜措置実施の効果

表3は、進んでいる東部と中レベルの中部と遅れている西部における関係省・直轄市一人当たり教育費の支出額である。大学教育の質的向上のため行っている傾斜措置によって地域間の差異が大きい。表に示されている教育費からも最大で2～6倍の差があることが分かる。

表3 関係省・直轄市における教育費

省・直轄市	教育費 / 1人・元
北京市	24380.4
上海市	15349.2
広東省	10622.18
天津市	9826.92
浙江省	8771.4
江蘇省	8156.83
湖南省	4531.27
江西省	4236.33
河南省	4099.88
安徽省	4078.57
四川省	4000.78

出所：百度百科

西部地域の貴州大学学長は、63年間当該大学への政府の投資額は985大学である浙江大学の3ヶ月分に過ぎないと指摘しているが⁽²¹⁾、差異の大きさは明白である。

ちなみに、傾斜措置実施によって予算上恩恵を受けているいくつかの大学の2016年度予算をみると⁽²²⁾、清華大学182.17億元、浙江大学154.28億元、北京大学153.11億元、上海交通大学118.03億元である。その他大学の予算は100億元を超えている大学は皆無だが、5位の復旦大学が78.80億元、6位の武漢大学が78.23億元、7位の山東大学が77.28億元、8位の中山大学が73.96億元、9位の華中科技大学が70.47億元、10位の天津大学70.31億元などである。トップの清華大学と最下位大学との差は179億元に達している。

差別化をはかり傾斜措置の実施によって、恩恵を受けている大学の質は向上されつつある。2015年6月17日のイギリス『Nature』誌が公表した「Nature Index 2015 Global」によると、WFC（Weighted Fractional Count）による自然指数（Nature Index）の評価分析で中国科学院自然指数は世界研究機関中1位を占めている。半年後12月17日の「Nature Index 2015 China」では、2012年から2014年までの期間中、中国の科研成果の産出は37%増に対し米国は4%減であったと示した。現在、世界ハイテク科研の総合貢献度は米国に次ぎ2位となっており、米国と日本における優勢は下がりつつある（Traditional strongholds of US and Japan experience a notable drop in their research output）と指摘している（付表1参照）。表4は、中国におけるWFC評価上位15大学のリストとその実力である。表からも分かるように、取り上げている大学すべては、大学教育の質向上のため傾斜措置の恩恵を受けている大学である。

研究開発（R&D）を大いに推進し、多額の予算で海外から研究者を招き、教育の質的向上に努めているが、投じた国の投資額だけで1.4兆元に達する。これはニュージーランドの年間GDPに相当する⁽²³⁾。中国の一貫して行われてきた設備投資から科学研究に大いに投資を

表 4 中国 WFC 評価上位 15 の大学

順位	大 学 名	WFC 値
1	北 京 大 学	275.53
2	清 華 大 学	194.87
3	南 京 大 学	194.57
4	中 国 科 技 大 学	175.73
5	浙 江 大 学	150.42
6	復 旦 大 学	129.23
7	南 開 大 学	113.77
8	武 漢 大 学	98.8
9	吉 林 大 学	97.9
10	上 海 交 通 大 学	95.99
11	中 山 大 学	79.41
12	四 川 大 学	76.82
13	厦 門 大 学	76.02
14	中国科学 院大学	71.18
15	蘭 州 大 学	69.99

出所：Nature 516, s77-s84 (18 December 2014)

行っている”選択と集中”が伺える。

2015 年 6 月 10 日 英国の The Times Higher Education は、アジアにおける大学ランキングを発表したが、上位 20 校のリストは表 5 の通りである。

東京大学はアジア首位の座を死守したものの、トップ 100 入りを果たした大学の数では、中国がはじめて日本を追い越してトップに立った。上位 10 は、日本、シンガポール、香港、韓国、中国の 5 カ国・地域が占めているが、それぞれ 2 大学ずつであった。しかし、上位 100 では、中国は 2014 年の 18 大学から 2015 年の 21 大学に躍進、日本は逆に 2013 年の 22 大学、2014 年の 20 大学から 2015 年は 19 大学と減り、アジアで第 2 位に転落した。中国では 2015 年に新しく 3 大学が上位 100 入りを果たしたが、なかでも北京大学が 4 位、清華大学が 5 位と、ベスト 10 入りを果たした。日本では東大と京大のみが上位 10 に入っているが、京都大は 2014 年の 7 位から 2015 年の 9 位と 2 つの順位を下げるなど、日中間の競争ぶりを物語っている。

いうまでもなく、中国政府は傾斜措置として「211」、「985」プロジェクト実施に相当力を入れており、各大学もグローバル化のなかで競争力の向上に尽力していることを示している。

さらに世界の一流大学、一流学科建設のため、中国政府はいち早く競争力ある 90 の大学から国家 1 級学科、2 級学科の認定を行った⁽²⁴⁾ (付表 2 参照)。

国家 1 級、2 級レベルの学科に認定されている上記の 90 大学の中には、1、2 級学科の認定はないが、今後期待される重点育成学科を有する大学が 2 校含まれている。国から認定された国家 1 級学科は計 295 で、90 大学のなか、国家 1 級学科に認定されていない大学は計 30

表5 2015年アジア大学ランキングと前年比

大学名	国／地域	2015年	2014年
東 京 大 学	日 本	1	1
シ ン ガ ポ ー ル 大 学	シンガポール	2	2
香 港 大 学	香 港	3	3
北 京 大 学	中 国	4	5
清 華 大 学	中 国	5	6
ソ ウ ル 大 学	韓 国	6	4
香 港 科 技 大 学	香 港	7	9
韓国科学技術院（KAIST）	韓 国	8	8
京 都 大 学	日 本	9	7
南 洋 理 工 大 学	シンガポール	10	11
浦 項 工 科 大 学 校	韓 国	11	10
中 東 工 科 大 学	ト ル コ	12	29
香 港 中 文 大 学	香 港	13	12
ボ ア ズ イ チ 大 学	ト ル コ	14	19
東 京 工 業 大 学	日 本	15	13
成均館大学校（SKKU）	韓 国	16	27
国 立 台 湾 大 学	台 湾	17	14
大 阪 大 学	日 本	18	15
イスタンブール工科大学	ト ル コ	19	24
東 北 大 学	日 本	19	16

出所：The Times Higher Education（英国）2015年6月10日より筆者作成

ある。国家1級学科はほぼ名門大学に集約され、研究分野における大学間の格差は明らかであるが、政府による世界一流大学、一流学科建設を目指している傾斜措置が伺える。

世界一流大学・学科建設を目指す中国大学教育で、鮮明に打ち出しているのが国際化である。つまり、①教育の国際化、②研究の国際化、③教員レベルの国際化、④大学経営の国際化、⑤大学の国際的責任、である。具体的に取り上げると、

- ①教育の国際化。主として大学の教育の質を高め、国際的に認められている一流大学の教育に匹敵する大学教育体系の構築である、
- ②研究の国際化。科学・学術研究のレベルを高め、研究ネットワークの構築、学術・科学研究活動を強化する、
- ③教員レベルの国際化。教員の教学レベルを向上させ、世界一流の大学教授、機関との交流、協力ができるように、
- ④大学管理の国際化。大学管理の戦略、国際化へのリンクの構築である、
- ⑤大学の国際的責任。CSRの大学版である。

総じて、世界一流大学、一流学科の推進を目指す政府の『方案』の下でその実現が期待されている。

2. 大学の発展を阻む学術の腐敗

上述の如く、世界の一流大学、一流学科の建設推進のため、国全体が学術振興へ力を注ぎ、政策、戦略、計画など諸方面から取り組みが行われている。しかし、このパフォーマンスの陰に隠れて見落とされがちな学術腐敗は撲滅されていないのも現状である。露呈されている課題も少なくない。ここでは、主として以下の3点についてとりあげる。

(1) 教員の評価と昇進制度がもたらす弊害

1961年、米国の科学論文引用索引（Science Citation Index（SCI））が立ち上げてから、相次ぎ社会科学分野の引用文献データベース（Social Sciences Citation Index SSCI）、芸術および人文雑誌文献の学際的索引（Arts and Humanities Citation Index A & HCI）など人文、社会および芸術学科における学術研究成果が文献データベースに収録されることとなった。半世紀以来、SCI、SSCI、A&HCIおよび米国現代言語協会英語論文作成ガイド（The Modern Language Association of America MLA）は世界の学術分野に普及され、中国も当然取り入れている。1987年、中国科技情報研究所が始めてSCIを導入、研究機関と研究者の評価基準として位置づけられ国内研究論文収録の数が急増した。各大学にも相次ぎ普及し、SCIは一気に中国全土に広がった。1980年代末南京大学が率先して評価基準としてSCIを採用、1992年から1998年まで当該大学のSCIにおける論文収録数は全国でトップの地位を保った⁽²⁵⁾。

人文社会科学領域における最初の評価基準は2000年南京大学社会科学研究評価センター出版の中国語社会科学引用索引（Chinese Social Sciences Citation Index CSSCI）であった。CSSCIの下で当該大学の核心機関誌、北京大学核心機関誌、中国人文社会科学核心機関誌、中国人文学科新聞核心機関誌とともに巨大なネットワークが形成され、評価基準として基礎が固められた。こういう評価基準の下で各大学は各自の教員評価の標準を設けていたが、評価と職務昇進の基本となる基準は学術論文とその数であり、現在に至っている。

教員の昇進にかかわる評価・審査は、大学毎によって異なっているがおおよそ共通点は以下3点にまとめられる。

1) 所属学部への申請。昇進を申請する教員は一定の学術研究成果論文を提出。教授により組織されている教授委員会（日本の教授会とはやや違う）で、投票による申請者の申請資格を決める。2) 学部による学術審査・評価が通れば、大学は外部の同領域の専門家を招き匿名審査・評価を行う。3) 学部の学術委員会は外部審査委員会の審査評価に従って、投票で昇進を決め、大学当局に報告、最終結果が下される。

従って、教員における評価と職務昇進の基本となる基準は学術論文とその数である。教員の職務昇進、受賞、ボーナスなどは全て発表論文の数量で評価し、掲載論文・プロジェクトの数が多ければ多いほど直接准教授、教授への昇進、受賞につながる。中国の特徴ともいえる、教育組織の上に置かれている行政組織の支配下で教員への評価・昇進が行われ、各自のプロジェクト数・論文数の多少によって授与される奨励も増えてくる仕組みであるため、学術研究の様々な不正に関しては目をつぶって知らない振りをしているのが現状である。学術体制管理はほぼ計画経済時代の行政管理モデルで変わることなく現在に至り、学術成果の評

価は内容より量を重んじているため人々に新しい創造、イノベーションより表面作業に偏る傾向が一般化されている⁽²⁶⁾。実際、中国の大学における科学研究成果の転化率は低く10%までも行かない⁽²⁷⁾ことから学術価値より数を重んじていることへの理解は難しくない。しばしば問題として指摘されたのは、権限を持っている教授委員会と学術委員会による投票への不信感であった。仮に素晴らしい研究業績で、同専門内ではほぼ問題なく認められていても、学部・学科における人間関係の良さによって最初の投票で否認される可能性があるからである⁽²⁸⁾。

こういう制度下で、人々は誰よりも論文の数、人間関係の重要性をしみじみと感じ、やがてこれがまた不正の温床となってしまうが、もう一つ陰に隠れて見落とされがちな出版社における裏取引も甚だしく、腐敗の震源の一つともいえる。論文数によって昇進などが決められる現状で、論文誌、機関誌、出版社の編集部は裏取引の重要場所となっている。出版社・論文誌のランキングによって、取引金額の相場も上がり、論文1篇掲載に1万人民元から二桁の万元までなっているのは公然の秘密である。

(2) 後を絶たない学術の腐敗

教員の評価・昇進は主として論文の数によって決めている制度下で、研究成果論文の真偽性、人間関係、研究組織を凌駕する行政組織の権限多大化などが実際学術腐敗の温床となって、腐敗が蔓延し大学の発展の障害となっている。論文の盗作・剽窃、捏造、データの偽造、論文・著作の丸ごと不法利用、外国のものも恐れず盗み取るなど学術の腐敗が一般化していると共産党メディアの人民日報さえも認め、警告の鐘を打ち鳴らしたが⁽²⁹⁾。学術腐敗の“一般化”とは、珍しくないことで抑制の歯止めがきかなくなっていることを示している。

実は2009年、上記問題は既に大きな社会問題としてクローズアップされた経緯があった。中国科学技術協会が全国の科学研究所や大学、大学院、企業、農村、医療機関などで働く科学技術者3万2100人を対象に行った「全国科学技術従業者状況調査報告」(有効回答3万78人)の発表によると、50%近くが「現在の科学技術学界には不正行為が普遍的に存在する」と認めており、論文の盗作や研究結果のねつ造、論文の使いまわし、代筆などの行為が学界内に蔓延していることが明らかになった。さらに「他人の研究成果の盗用」については51.2%の回答者が「かなりの数で存在する」、「自分の周囲で不正行為を見たことがあるか？」との質問には、過半数の55.5%が「ある」と答えている⁽³⁰⁾。しかし、驚くべきことに、多くがこういった行為に同情し、20%の科学者が許してやるべきだと考えている⁽³¹⁾という状況下では上記の“一般化”への理解は難しくない。

名門大はこういった行為に同情し、20%の科学者が許してやるべきだと考えている⁽³¹⁾。こうした状況下は大学の学長、日本の学士院に当たる科学院・工程院院士、教授から大学院院生に至るまでごまかしをする人は増えつつあり、さらに益々その行動が“大胆”になっている。論文剽窃、データ偽造は日常の茶飯事で他人の論文や著作などが平気に占有され、著名人のものはともかく海外の論文、作品も恐れず盗み取り不法に占有されることなどが絶えず起きている。「全世界の前に中国学術界のイメージが非常に見劣りがある」という表現さえもで

た⁽³²⁾。

中国政府の公式発表では、国際論文誌に発表されている中国の論文数は米国に次いで世界2位⁽³³⁾になっている。しかし、すべての内容が実際に精査されているわけではなく、上述の学術論文の盗作や代筆などの不正が蔓延されている現状下では、論文の真偽性、中国人科学者の信用問題にもつながる恐れがあると指摘している⁽³⁴⁾。

2015年9月16日に開催された「2015年度首都高等教育機関道德と学風建設宣伝教育報告会」で、中国科学技術協会主席韓啓徳氏は、64篇の研究論文が偽造などの不正問題の発覚で海外の機関誌から掲載取消処分を受けたことを明らかにした。2015年8月、著名な出版社、メディア大手のSpringer(独)傘下の10の学術刊行物側は、掲載済みの64篇に上る中国論文の明らかな偽造問題が発覚したため掲載取消処分を公表した。韓氏は、“中国の科学者の道德と学風建設は非常に厳しい状況下に置かれ、任務の遂行は容易ではない”と語った。実は半年前の3月、英国医学・科学専門のBMC出版社(Bio Med Central)はすでに中国の43篇の研究論文の掲載取消処分を下したばかりでもあった。この処分を受けたりスト中には著名な中国医科大学、四川大学、山東大学と上海交通大学医学院などが挙げられている⁽³⁵⁾。この2つのケースは共に、“同分野における審査員の査読の結果、中国論文の偽造問題が発覚”した⁽³⁶⁾。「こうした問題は中国が科学研究分野でトップレベルに立つという目標の実現に疑問を提起するだけでなく、外国の科学者が中国の科学者と共同研究をしたいという気持ちを削ぐ恐れさえある」と指摘している⁽³⁷⁾。

不正は、教員、研究者のみならず大学院生までに“普及”している。2013年元旦、教育部は初めて学術腐敗は正に関する『学位論文不正に関する処分弁法』を公布、実行となった。この規程には、学位論文不正行為者の学位資格の取り消し、当該大学に徹底的に学位審査制度の再構築を促すなどの諸規程と措置が明記されていた。

例えば、2016年1月、名門の山東大学歴史文化学院修士論文の剽窃が公となった。大学院公文書専攻修士生の2013年4月“公文書開放利用と情報安全保障の研究”の修士論文は1年先の2012年4月安徽大学大学院修士生の“公文書開放利用の安全保障研究”と題する修士論文をほぼ丸ごと剽窃した⁽³⁸⁾。実は、2009年西南財経大学大学院の修士論文“我が国の貨幣政策が株式市場に与える効果研究”は東北師範大学大学院金融学専攻修士論文の一字も変えず丸ごと剽窃され2014年に学位剥奪処分を受けたばかりであった⁽³⁹⁾。不正はさらにエスカレートし、同じゼミ先輩後輩の学位論文の盗作問題も公になった。名門の東北師範大学大学院中国古代文学専攻の05年級と06年級修士修了論文のテーマ、サマリー、キーワード、参考文献、本文の内容もほぼ同じで、当然同一指導教授の門下生であった⁽⁴⁰⁾。

大学院への進学は、より専門的な学習、研究の能力を身につけることは建前のことで、本音は学位証書一枚を手に入れることによってよりよい仕事に就きたいことにある。こういう心理的要素に拡大募集以降、大学院への入学・修了が従来により“楽”になった外因がミックスされ、平気で剽窃する非行の温床の下で仮に盗作が発覚されても別の論文に切り替えればいずれ修了できている院生は少なくない。さらに「ニセ」の大学卒業証明書、成

績証明書は平気で売買され、インターネットでの「購入」もできる。ひいては「本物」の卒業証明書や成績表さえ買うことができる。要するに、カネとコネさえ使えばできないことはほとんどない。こういう風潮の下で、真面目に勉強し研究することはかえってばかばかしくなる。学術腐敗の社会の風潮下で、大学教授さえも平気で剽窃することが珍しくない中で大学院生は羞恥感を忘れ互いに“学ぶ”わけである。

評価体制の不備下で、評価の行政化、人情、コネ、派閥などの勢いが増して学術評価の本来の意味が失われ、不正蔓延の空間が広がっていることは明白である。ネットワークの発展をうまく利用してコピー・貼り付け、孫引きばかりを考えこれを自分の利益に結びつけて取引の用具として利用し、みせかけのニセ成果・学問にしている。学術会議、成果鑑定、資格審査、プロジェクト審査の過程においても、接待、袖の下の取引、コネが横行している。教授になると終始「プロジェクト」漬けの生活を送るようになり、学部生に授業をすることは少なくなる、などなど数え切れない。不正、腐敗是正に関する関連法制度の不備がかなり原因となっていることが伺える。

(3) 新しい評価制度導入の試みと不安

学術腐敗の取り締まりキャンペーンは一貫して実施されているが、一つ注目されているのは、2009年3月19日教育部により公布された『厳しく高等教育機関学術不正行為の処分に関する通知』である。教育部は始めて学術腐敗を詳しく7つに分けて定義したことは興味深い。この7つの学術腐敗とは、①盗作、剽窃、丸ごと不法利用、②学術成果の改ざん、③データ、文献の改ざん、事実の捏造、④注釈の作り上げ、⑤他人の学術成果に自分の名を入れる、⑥許可を得ず他人の署名を使う、⑦その他学術不良行為、である。通知自体は問題は正のため公布したもののだが、逆にいかにも腐敗が蔓延しているかが伺える。通知では、上記の腐敗を決して甘やかさなく、厳しく対処すると強調している。これは、学術腐敗に関する政府の強い意志を示していることを明らかにしているが、容易なことではない。

教員昇進にかかわる評価・審査における大きな社会問題がクローズアップされ、その解決に注意を払っているのも事実である。例えば、復旦大学は、論文数のみの審査・評価ルールから学術評価の“代表作”による評価・審査制度に変えて実施されている。復旦大学は最初の2010年時に取り入れた准教授に昇進する際の論文5篇、教授に昇進する場合の論文10篇、そして若干篇の国内外“核心論文誌”、“権威論文誌”に載せている論文とその数という形式的に堅い評価の基準で行われた教訓を踏まえ、2012年より新しい評価基準に踏み切ったわけである。

今までの堅いルールを取り止めて“代表作”を以て昇進の申請ができるという新しい制度の試みである。申請者が自信ある研究成果を出せば、専門家の厳格な評価・審査を得ることができる。代表作が1篇でも、“核心・権威”の論文誌に掲載されていなくても申請の資格があると定めている。現行の大学、学部の評価基準における審査・評価が難しい場合、①自ら学部へ直接申請ができ、1～3篇の代表作を提出、②学部の申請に従い大学は外部より無作為で同分野における5名の審査委員を要請し、匿名審査を行う。“非常に優秀”、“破格昇進可

能か否か”、“適任か否か”などに分けて学術評価を行い、③最終的には専門家の意見を踏まえ大学当局が昇進・招聘を決める。

実施以来、20 余りの教授昇進の申請、20 名弱の准教授昇進の申請者がでたが、上記のルールに従って評価を経て最終的に1/3の申請者が正式に招聘された。大学は、今後更に広げて推進すると言明している⁽⁴¹⁾。しかし、避けられない厚い人間関係を重んじている社会風潮下で、不安感を持っている人は少なくない。

なぜ、学術腐敗問題の是正はあまり進まないのか。様々な面が考えられるが、主な理由としては、改革開放推進の 1980 年代から 90 年代初までは、国全体の学術研究に対する責任と評価制度が整備されておらず脆弱だったことが上げられる。90 年代経済の高度成長と市場経済推進下のもとで、昇格・昇進や報奨金などに対する評価基準は、論文の内容・質ではなく数量によって判定される制度に偏っており、不正に関する罰則規定の整備も遅れていた。業績評価、人事昇進などについて、質、効果を重視するのではなく、一貫して発表論文の数、SCI (Science Citation Index) の引用件数などを評価の主項目として取り込んでいた。学術不正の概念、分類、要素などへの定義もまだはっきり定められず、学術不正の賞罰に関する関連法律も完全に整備されていない。こういう状況下で、後を耐えない学術腐敗問題を問いかけて共に考え、単なる表面上の不正の是正のみでなくあらためて人間の道徳・良心の形成の課題および科学的な評価体制の整備が必要であるのはいうまでもない。

おわりに

本稿では中国教育の現状、大学の発展を阻む学術の腐敗を中心に、1999 年から 2012 年まで実施された拡大募集による高等教育大衆化の状況、問題点、中国の特徴ともいえる発展途上国ながら大学教育における「211」・「985」工程から世界一流大学、一流学科建设への傾斜措置の実施、教員の昇進・評価に関する固い制度下で不正が一般化されつつあり、教員から院生に至るまで蔓延している学術の腐敗を取り上げた。大手の財新網によると⁽⁴²⁾、2014 年から 2015 年 12 月までの間、中国全国 54 大学の責任者が共産党規律検査委員会の調査を受けたが、中には 17 の“211 工程”、“985 工程”の著名大学の者が含まれ、規律違反案件に係わった者は 73 名に上る。各省の規律検査の調査を受けた 48 名のなかで、14 名は共産党党籍剥奪、公職から追放され、32 名は更に審査を受けている。なお、教育部(省)から通報された 35 名の規律違反被疑者のなか、11 名が警告処分、6 名が嚴重警告処分をうけた。とくに、2015 年 11 月、中国伝媒大学(メディア大学)腐敗問題が公になり、学長をはじめとする 8 名の責任者が規律違反問題で処分を受けた。主に、学生の募集、キャンパス建設、科研費などが問題発生の一因となった。それ以外、監督力の弱さ、公費による観光、私物化などが取り上げられ、その腐敗を物語っている。

大学の教員は、終始プロジェクトの申請、論文書き、諸書類の提出、学会での報告などで精一杯である。自分の研究と学術分野の仕事に忙しく過ごしているのは一種の楽しみでもある。しかし、一方では教員の昇進、業績審査などが非常に具体的かつ数量化された論文の数、

プロジェクト、研究成果などのハードルをクリアすることが求められる。こういう形式的な固い昇進・評価制度自体が一種の腐敗を生む温床となっているのではないか。

中国の深セン市は昔の漁業など中心の田舎の町だった。1980年5月に経済特区に指定されて以来、国の傾斜措置、莫大な外国投資を誘致し、同国屈指の世界都市に、金融センターとしても重要性を持つ都市として成長し、2007年に1人当たり中国の都市で初めてGDPが1万ドルを突破した⁽⁴³⁾。このように、国が全力で傾斜措置を講じ、バックアップすればその発展も早い。中国における大学教育の発展もそうである。世界一流大学、一流学科の建設を目指し全力を挙げていくという政府の戦略からもその目標の実現は可能であろうと考えられる。

しかし、経済発展にともない教育重視の政策の下で中国高等教育は質的に向上されつつあり、積極的に国際化へのリンクをはかっている反面、“一般化”されている学術不正にともなう腐敗は後を絶たない。2010年9月9日に出版された、英科学誌『ネイチャー』のコラムに「浙江大学学報」編集部主任張月紅の「中国のある学術雑誌の投稿論文は31%が盗作」、が掲載された⁽⁴⁴⁾。まさに不正は甚だしい。問題は、盗作論文なのになぜ投稿させる、投稿できるのかである。また、中国人民解放軍総病院（301医院、軍の最高級病院）の李春霖教授が海外博士論文の重要なデータを剽窃したため、Molecular and Cellular Biochemistry 論文誌から掲載取消処分が下されたと報道されている⁽⁴⁵⁾。こういう事例は数え切れないほど多い。科学技術振興、一流大学・学科の建設などのスローガンを掲げていても、不備な法制度と評価体制、そして何よりも重大なのは学術文化に従事する者の倫理・道徳の向上の課題であり、遠い超大国への路でもあろう。一方では、世界一流大学・一流学科建設のパフォーマンスとその勢いは上昇しつつあるものの、一方では学術腐敗が蔓延し真の大学の教育、研究の実力成果はどのように判断すべきなのか。これからの推移とその方向を興味深く見守る次第である。

(2016. 9. 30 受付 / 2016. 11. 30 受理)

注

- (1) 211工程 (Project 211) は中国教育部が1995年に定めたもので、21世紀に向けて中国の100の大学に重点的に投資していくとしたもの。これら大学は「211工程重点大学」あるいは「211重点大学」と呼ばれ、それまでの「国家重点大学」という言葉に取って替わった。現在、普通大学が109校、軍学校が3校、合計112校がある (2016年現在)。
- (2) 985工程 (Project 985) は中国教育部が1998年5月に定めたもので、中国の大学での研究活動の質を国際レベルに上げるために、限られた大学に重点的に投資していくとしたもの。当時の江沢民国家主席が北京大学の創立100周年に際して、初めて言及した。現在、普通大学が38校、軍学校が1校、合計39校がある (2016年)。985工程大学の数は211工程大学より少ないが、国からもらう予算、就職、進学面では優位性を持っている。いま中国では、985工程は、“世界一流大学工程”とも称している。
- (3) 「关于进一步加强大学生村官工作的意见」中国共产党新闻网 2012年8月17日

- (4) 「状況と热点难点问题」『社会学研究』1999年,(5) pp.19-20
- (5) 『南方週末』2008年2月25日
- (6) 『中国成人教育』2015年14期
- (7) 人民網(人民日報)「強国社区」2014年9月28日
- (8) 2015年4～5月、湖南省懷化学院、湘潭大学、湖南師範大学、湖南工業大学などで行われた筆者の聞き取り調査
- (9) 葛輝文「高等教育の転換は誰が決めるのか」湖南常德日報2014年6月9日
- (10) 「普通本科13年扩招终叫停 扩招凸显三大弊端」北京日報2012年4月26日
- (11) 独立学院は公立の一般大学と民間の投資者(または投資機構)が連携して設立した高等教育機関の一種である。独立学院が実施する教育は主に普通大学学部レベルの教育であり、学生に徴収する学費も一般公立大学よりはるかに高い。組織上公立大学の下に属するため誕生した当初は公立の性質が認識されたが、2008年の中国教育部令『独立学院設置と管理方法』によって、今は「私学」であることが認められる。
- (12) 『国家中長期教育改革と発展計画綱要(2010～2020)』
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A01/s7048/201007/t20100729_171904.html 2015年12月25日アクセス
- (13) 北京晚報2014年10月21日
- (14) 广东省教育厅通过官方微信公布 2015年7月2日
- (15) 北京市教育委员会京教研〔2015〕1号2015年3月27日
- (16) 北京晚報2015年10月28日
- (17) 中国教育報2015年9月29日
- (18) 浙江省教育厅浙教高科〔2015〕126号2015年12月4日
- (19) 陝西省教育厅2015年11月25日
- (20) 河南省教育厅教高〔2015〕1085号2015年12月12日
- (21) 2016年3月13日 CCTV 13channel ニュース
- (22) 「73所教育部直属高校予算」新京報(電子版) 2016年5月13日
- (23) 朝鮮日報(韓国)网站2016年4月29日
- (24) 中国の大学における学科の分類であるが、1級学科は学科の大分類、2級学科はその下のサブ分類である。例えば伝統的な、中国言語と文学/中文は1級学科で、具体的に下の中国古典文学、中国現代文学、比較文学、文化芸術および言語方面の専門は2級学科である。
- (25) 周建平、謝若含「高校青年教师陷科研教学双重压力晋难度大」『南方人物週刊』2016年1月21日
- (26) 唐捷等「論我国學術造假的成因及杜绝对策」『中国集体經濟』2007 No.11 pp.181-182.
- (27) 中国經營報(No2111) 2015年5月25日
- (28) 前掲⁽²⁵⁾
- (29) 人民日報2009年2月6日
- (30) 京華時報2009年7月11日
- (31) 人民日報2009年2月6日
- (32) 中国青年報2001年8月20日
- (33) 環球時報2010年4月15日
- (34) 「中国で學術論文の盗作や代筆が横行、信用問題にも」AP通信2010年4月11日『レコードチャイナ』2010年4月19日掲載
- (35) The Washington Post 2015年3月27日記事、「参考消息」2015年4月1日掲載
- (36) 人民日報2015年9月18日

- (37) AP 通信 2010年4月11日記事 「環球時報」2010年4月15日掲載
- (38) 「山大承認一档案学碩士論文為抄襲 学校將処罰」澎湃新聞 2016年1月25日
- (39) 「題目から参考文献まで丸ごと剽窃」華西都市報 2016年1月31日
- (40) 科学網 2016年2月23日 <http://blog.sciencenet.cn/blog-69474-958055.html> 2016, 2, 25 アクセス
- (41) 姜泓冰「复旦大学在全校推广代表作評審制度淡化以往職務評聘的“硬杠杠”」人民日報 2012年3月28日
- (42) Caixin.com 2016年3月3日
- (43) 深セン市統計局 2008年1月28日
- (44) 文匯報(香港) “Chinese journal finds 31% of submissions plagiarized” 2010年9月16日 『レコードチャイナ』2010年9月17日掲載
- (45) 郭川「301 医院教授論文抄襲 博士論文猿年被撤」『今日科学』2016年2年12日

〔謝辞〕

本稿の執筆にあたり、2名の匿名の先生から有益なコメントを頂き、この場を借りて心より感謝申し上げたい。なお、本稿の誤り、不備の責任は全て筆者に帰するものである。

付表1 中国大学におけるトップ100 研究機関

2014	INSTITUTION	WFC 2013	WFC 2014	AC 2014	CHANGE IN WFC 2013-2014
1	Peking University (PKU)	275.51	293.86	1,019	6.7%
2	Nanjing University (NJU)	196.52	215.08	518	9.4%
3	Tsinghua University (TH)	195.15	211.39	666	8.3%
4	University of Science and Technology of China(USTC)	175.78	193.90	561	10.3%
5	Zhejiang University (ZJU)	150.44	192.13	364	27.7%
6	Fudan University	129.42	166.21	356	28.4%
7	Institute of Chemistry (ICCAS), CAS	124.85	124.34	306	-0.4%
8	Shanghai Institute of Organic Chemistry (SIOC), CAS	105.62	114.25	210	8.2%
9	Lanzhou University (LZU)	69.72	110.38	186	58.3%
10	Shanghai Jiao Tong University (SJTU)	96.01	108.06	290	12.5%
11	Jilin University (JLU)	97.50	104.93	189	7.6%
12	Wuhan University (WHU)	98.90	96.93	164	-2.0%
13	Xiamen University (XMU)	76.02	95.56	215	25.7%
14	Nankai University (NKU)	113.52	93.43	230	-17.7%
15	Sichuan University (SCU)	76.83	93.36	177	21.5%
16	Soochow University	65.25	91.43	169	40.1%
17	Sun Yat-sen University (SYSU)	79.43	89.72	193	13.0%
18	University of Chinese Academy of Sciences (UCAS)	71.21	89.12	524	25.1%
19	Institute of Physics (IOP), CAS	77.24	87.88	267	13.8%
20	East China Normal University (ECNU)	65.56	83.17	148	26.9%
21	Changchun Institute of Applied Chemistry (CIAC), CAS	80.69	82.09	142	1.7%
22	Hunan University (HNU)	54.57	77.38	111	41.8%
23	Hong Kong University of Science and Technology (HKUST)	54.60	74.62	136	36.7%
24	The University of Hong Kong (HKU)	71.38	71.77	186	0.5%
25	Dalian Institute of Chemical Physics (DICP), CAS	61.90	71.75	139	15.9%
26	East China University of Science and Technology (ECUST)	56.75	71.27	130	25.6%
27	Xi'an Jiaotong University (XJTU)	42.98	67.79	170	57.7%
28	Fujian Institute of Research on the Structure of Matter (FJIRSM), CAS	59.54	64.96	124	9.1%
29	Shandong University (SDU)	39.18	63.00	158	60.8%
30	Huazhong University of Science and Technology (HUST)	43.04	57.39	154	33.3%
31	Dalian University of Technology (DUT)	61.42	52.36	96	-14.7%
32	Shanghai Institutes for Biological Sciences (SIBS), CAS	51.44	52.12	131	1.3%
33	Southeast University (SEU)	30.94	51.64	110	66.9%
34	Beijing Normal University (BNU)	39.81	50.82	144	27.7%
35	Northeast Normal University (NENU)	30.73	48.53	67	57.9%
36	Tianjin University (TJU)	33.90	46.23	151	36.4%
37	Tongji University	40.83	45.85	107	12.3%
38	South China University of Technology (SCUT)	30.74	45.79	91	49.0%
39	Hefei Institutes of Physical Science (HIPS), CAS	19.97	39.73	77	99.0%
40	nstitute of Semiconductors (IOS), CAS	35.66	36.76	87	3.1%

2014	INSTITUTION	WFC 2013	WFC 2014	AC 2014	CHANGE IN WFC 2013-2014
41	Fuzhou University (FZU)	26.76	35.93	56	34.3%
42	The Chinese University of Hong Kong (CUHK)	39.39	35.82	110	- 9.1%
43	People's Liberation Army (PLA)	42.90	35.33	132	- 17.6%
44	Harbin Institute of Technology (HIT)	36.22	33.06	63	- 8.7%
45	Chinese Academy of Medical Sciences & Peking Union Medical College (CAMS & PUMC)	24.74	32.36	97	30.8%
46	Technical Institute of Physics and Chemistry (TIPC), CAS	29.11	32.08	70	10.2%
47	City University of Hong Kong (CityU)	36.51	31.97	78	- 12.4%
48	Shanghai University (SHU)	16.49	31.87	72	93.2%
49	Beijing Institute of Technology (BIT)	20.11	31.35	65	55.9%
50	Beijing University of Chemical Technology (BUCT)	23.45	30.34	50	29.4%
51	Shanghai Institute of Materia Medica (SIMM), CAS	27.48	29.39	56	7.0%
52	University of Science and Technology Beijing (USTB)	25.79	28.85	53	11.9%
53	Shanghai Institute of Ceramics, CAS (SICCAS)	23.82	28.43	65	19.4%
54	Institute of High Energy Physics (IHEP), CAS	32.77	28.02	229	- 14.5%
55	Northwest University (NWU)	12.04	26.26	40	118.2%
56	Suzhou Institute of Nano-Tech and Nano-Bionics (SINANO), CAS	25.40	25.94	66	2.1%
57	Institute of Theoretical Physics (ITP), CAS	24.03	24.56	65	2.2%
58	Zhengzhou University (ZZU)	13.77	23.58	53	71.3%
59	Beihang University (BUAA)	17.68	23.36	78	32.1%
60	Southwest University (SWU)	16.11	22.67	37	40.7%
61	Central China Normal University (CCNU)	17.28	22.59	67	30.7%
62	National Center for Nanoscience and Technology (NCNST), CAS	24.20	21.36	42	- 11.7%
63	Nanjing Tech University (NanjingTech)	11.92	21.25	49	78.3%
64	Lanzhou Institute of Chemical Physics (LICP), CAS	17.19	20.61	47	19.9%
65	National Astronomical Observatories (NAOC), CAS	21.60	20.08	238	?7.0%
66	Central South University (CSU)	10.18	19.82	58	94.7%
67	Shanghai Institute of Applied Physics (SINAP), CAS	13.02	19.48	58	49.6%
68	The Hong Kong Polytechnic University (PolyU)	25.94	19.40	50	- 25.2%
69	Institute of Biophysics (IBP), CAS	18.51	19.36	59	4.6%
70	Chongqing University (CQU)	12.90	19.09	34	48.1%
71	Shandong Normal University (SDNU)	12.73	19.06	24	49.8%
72	University of Electronic Science and Technology of China (UESTC)	11.98	18.42	49	53.7%
73	Institute of Metal Research (IMR), CAS	18.26	17.76	29	- 2.7%
74	Shenzhen Institutes of Advanced Technology (SIAT), CAS	11.38	17.51	25	53.8%
75	Kunming Institute of Botany (KIB), CAS	9.98	17.43	29	74.6%
76	China Agricultural University (CAU)	14.65	17.20	44	17.4%
77	China University of Geosciences (CUG)	14.52	17.01	38	17.2%
78	Nanjing Normal University (NNU)	7.75	16.71	45	115.6%
79	Henan Normal University (HTU)	12.42	16.51	38	32.9%
80	State Oceanic Administration (SOA)	6.71	16.14	47	140.7%

2014	INSTITUTION	WFC 2013	WFC 2014	AC 2014	CHANGE IN WFC 2013-2014
81	Wuhan University of Technology (WUT)	8.59	16.05	29	86.9%
82	Shanghai Institute of Technical Physics (SITP), CAS	7.97	15.94	54	100.0%
83	Yunnan University (YNU)	11.39	15.80	36	38.6%
84	South China Normal University (SCNU)	6.87	15.72	35	128.7%
85	Institute of Zoology (IOZ), CAS	15.43	15.65	40	1.4%
86	Ocean University of China (OUC)	13.03	15.59	40	19.6%
87	Xiangtan University (XTU)	12.87	15.50	29	20.4%
88	Wuhan Institute of Physics and Mathematics (WIPM), CAS	10.35	15.34	53	48.3%
89	Shanghai Institute of Microsystem and Information Technology (SIMIT), CAS	17.08	15.21	30	-10.9%
90	Nanjing Medical University (NJMU)	7.27	14.91	58	105.1%
91	Shanxi University (SXU)	10.82	14.66	29	35.6%
92	BGI	15.71	14.66	63	?6.7%
93	Huazhong Agricultural University (HZAU)	10.67	14.38	31	34.8%
94	Changzhou University (CZU)	5.93	14.23	22	140.2%
95	China University of Petroleum (UPC)	7.15	14.17	37	98.2%
96	Northwestern Polytechnical University (NPU)	12.90	13.79	28	6.9%
97	Northeastern University (NEU)	2.10	13.66	21	550.0%
98	Institute of Genetics and Developmental Biology (IGDB), CAS	10.20	13.43	38	31.7%
99	Ningbo Institute of Materials Technology and Engineering (NIMTE), CAS	14.94	13.28	23	-11.1%
100	Beijing University of Technology (BJUT)	7.67	13.27	29	73.0%

出所：『観察者』（中国）2015年12月22日 原典：『Nature』（英国）2015年12月17日の「Nature Index 2015 China」より筆者抜粋

付表2 国家1級、2級学科に認定された競争力ある90大学リストとその学科数(順不同)

1 清華大学	国家1級学科	22 学科	22 河北電力大学	国家1級学科	なし
	国家2級学科	15 学科		国家2級学科	2 学科
2 北京大学	国家1級学科	18 学科	23 中央财经大学	国家1級学科	1 学科
	国家2級学科	25 学科		国家2級学科	1 学科
3 上海交通大学	国家1級学科	9 学科	24 对外经济贸易大学	国家1級学科	なし
	国家2級学科	11 学科		国家2級学科	2 学科
4 同濟大学	国家1級学科	3 学科	25 中国石油大学	国家1級2級学科	なし
	国家2級学科	8 学科		重点育成学科	1 学科
5 華東師範大学	国家1級学科	2 学科	26 西南财经大学	国家1級学科	なし
	国家2級学科	5 学科		国家2級学科	4 学科
6 華東理工大学	国家1級学科	1 学科	27 北京航空航天大学	国家1級学科	8 学科
	国家2級学科	7 学科		国家2級学科	28 学科
7 東華大学	国家1級学科	1 学科	28 北京伝媒大学	国家1級学科	なし
	国家2級学科	5 学科		国家2級学科	2 学科
8 上海财经大学	国家1級学科	なし	29 北京外国語大学	国家1級学科	なし
	国家2級学科	2 学科		国家2級学科	3 学科
9 上海外国語大学	国家1級学科	なし	30 南開大学	国家1級学科	6 学科
	国家2級学科	2 学科		国家2級学科	43 学科
10 上海大学	国家1級学科	なし	31 天津大学	国家1級学科	7 学科
	国家2級学科	4 学科		国家2級学科	9 学科
11 華東政法大学	国家1級学科	なし	32 燕山大学	国家1級学科	1 学科
	国家2級学科	1 学科		国家2級学科	3 学科
12 上海理工大学	国家1級2級学科	なし	33 大連理工大学	国家1級学科	4 学科
	重点育成学科	1 学科		国家2級学科	6 学科
13 上海師範大学	国家1級学科	なし	34 中国医科大学	国家1級学科	なし
	国家2級学科	1 学科		国家2級学科	5 学科
14 中国人民大学	国家1級学科	8 学科	35 ハルビン工業大学	国家1級学科	9 学科
	国家2級学科	8 学科		国家2級学科	6 学科
15 北京理工大学	国家1級学科	4 学科	同大学(威海)	国家1級学科	9 学科
	国家2級学科	5 学科		国家2級学科	6 学科
16 北京郵電大学	国家1級学科	2 学科	36 ハルビン工程大学	国家1級学科	1 学科
	国家2級学科	なし		国家2級学科	2 学科
17 北京化工大学	国家1級学科	1 学科	37 南京大学	国家1級学科	8 学科
	国家2級学科	7 学科		国家2級学科	13 学科
18 北京科技大学	国家1級学科	4 学科	38 東南大学	国家1級学科	5 学科
	国家2級学科	12 学科		国家2級学科	5 学科
19 北京林業大学	国家1級学科	1 学科	39 中国薬科大学	国家1級学科	1 学科
	国家2級学科	2 学科		国家2級学科	なし
20 中国政法大学	国家1級学科	1 学科	40 南京航空航天大学	国家1級学科	2 学科
	国家2級学科	10 学科		国家2級学科	1 学科
21 北京交通大学	国家1級学科	2 学科	41 河海大学	国家1級学科	1 学科
	国家2級学科	8 学科		国家2級学科	7 学科

42 南京理工大学	国家 1 級学科	2 学科	63 西安交通大学	国家 1 級学科	8 学科
	国家 2 級学科	4 学科		国家 2 級学科	8 学科
43 南京農業大学	国家 1 級学科	4 学科	64 中山大学	国家 1 級学科	2 学科
	国家 2 級学科	3 学科		国家 2 級学科	23 学科
44 南京信息工程大学	国家 1 級学科	なし	65 暨南大学	国家 1 級学科	なし
	国家 2 級学科	1 学科		国家 2 級学科	3 学科
45 江蘇大学	国家 1 級学科	なし	66 華南理工大学	国家 1 級学科	2 学科
	国家 2 級学科	2 学科		国家 2 級学科	3 学科
46 西南大学	国家 1 級学科	なし	67 中国農業大学	国家 1 級学科	6 学科
	国家 2 級学科	3 学科		国家 2 級学科	6 学科
47 浙江大学	国家 1 級学科	18 学科	68 東北大学	国家 1 級学科	3 学科
	国家 2 級学科	28 学科		国家 2 級学科	4 学科
48 中国科技大学	国家 1 級学科	8 学科	69 大連海事大学	国家 1 級学科	なし
	国家 2 級学科	24 学科		国家 2 級学科	2 学科
49 合肥大学	国家 1 級学科	1 学科	70 北京師範大学	国家 1 級学科	5 学科
	国家 2 級学科	2 学科		国家 2 級学科	11 学科
50 山東大学	国家 1 級学科	2 学科	71 西北大学	国家 1 級学科	1 学科
	国家 2 級学科	14 学科		国家 2 級学科	4 学科
51 武漢理工大学	国家 1 級学科	2 学科	72 華中農業大学	国家 1 級学科	1 学科
	国家 2 級学科	1 学科		国家 2 級学科	6 学科
52 武漢大学	国家 1 級学科	5 学科	73 蘭州大学	国家 1 級学科	なし
	国家 2 級学科	17 学科		国家 2 級学科	8 学科
53 華中科技大学	国家 1 級学科	7 学科	74 中国海洋大学	国家 1 級学科	2 学科
	国家 2 級学科	15 学科		国家 2 級学科	9 学科
54 湖南大学	国家 1 級学科	2 学科	75 江南大学	国家 4 級学科	1 学科
	国家 2 級学科	14 学科		国家 2 級学科	1 学科
55 中南大学	国家 1 級学科	25 学科	76 中央民族大学	国家 1 級学科	なし
	国家 2 級学科	4 学科		国家 2 級学科	2 学科
56 西南交通大学	国家 1 級学科	2 学科	77 吉林大学	国家 1 級学科	17 学科
	国家 2 級学科	2 学科		国家 2 級学科	15 学科
57 電子科技大学	国家 1 級学科	2 学科	78 厦門大学	国家 1 級学科	5 学科
	国家 2 級学科	なし		国家 2 級学科	9 学科
58 西南政法大学	国家 1 級学科	なし	79 南方医科大学	国家 1 級学科	なし
	国家 2 級学科	2 学科		国家 2 級学科	3 学科
59 重慶大学	国家 1 級学科	7 学科	80 中国地質大学	国家 1 級学科	2 学科
	国家 2 級学科	4 学科		国家 2 級学科	10 学科
60 長安大学	国家 1 級学科	1 学科	81 四川大学	国家 1 級学科	5 学科
	国家 2 級学科	5 学科		国家 2 級学科	38 学科
61 西安電子科技大学	国家 1 級学科	2 学科	82 瀋陽農業大学	国家 1 級学科	なし
	国家 2 級学科	6 学科		国家 2 級学科	1 学科
62 西北工業大学	国家 1 級学科	2 学科	83 太原理工大学	国家 1 級学科	なし
	国家 2 級学科	7 学科		国家 2 級学科	1 学科

84 中南財經政法大學	国家1級学科	なし	88 延辺大学	国家1級学科	なし
	国家2級学科	4学科		国家2級学科	1学科
85 華中師範大学	国家1級学科	なし	89 西北農林科技大学	国家1級学科	なし
	国家2級学科	8学科		国家2級学科	7学科
86 南昌大学	国家1級学科	なし	90 西安建築科技大学	国家1級学科	なし
	国家2級学科	1学科		国家2級学科	3学科
87 北京体育大学	国家1級学科	1学科			
	国家2級学科	なし			

出所：2016年1月16日『今日頭条網』評論により筆者作成